

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業名：一般国道17号 浦佐バイパス	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 北陸地方整備局	
起終点：(自)新潟県南魚沼市市野江甲 (至)新潟県魚沼市虫野	延長	6.6km	
事業概要 一般国道17号は、東京から本州を横断して新潟市に至る延長約430kmの主要幹線道路であるほか、地域の社会経済活動を支える重要な路線である。浦佐バイパスは、新潟県魚沼地方生活圏における広域幹線道路ネットワークを構成する約6.6kmの2車線道路である。			
S63年度事業化	H3年度都市計画決定	H5年度用地着手	
全体事業費	221億円	事業進捗率	
計画交通量	7,500~13,400台/日	供用済延長	
費用対効果分析結果	B/C：(事業全体) 1.1 (残事業) 1.8 総費用：(残事業)/ (事業全体) 103/168億円 (事業費：83/148億円 維持管理費：20/20億円)	総便益：(残事業)/ (事業全体) 187/187億円 (走行時間短縮便益：172/172億円 走行費用減少便益：12/12億円 交通事故減少便益：3/3億円)	基準年：平成17年
感度分析の結果 ：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=1.5~2.0（交通量±10%） 事業費変動：B/C=1.7~2.0（事業費±10%） 事業期間変動：B/C=1.7~1.8（事業期間±20%） 社会的割引率変動：1.6~2.1（割引率±1%）			
事業の効果等 ・個性ある地域の形成（拠点開発プロジェクトを支援する） ・災害への備え（現道の冬期交通障害区間を解消する）			
関係する地方公共団体等の意見 浦佐バイパスは、冬期交通障害の解消、地域振興の支援、地域ネットワークの充実強化や沿道環境の改善等重要な役割を果たすことが期待されており、旧大和町と旧小出町の首長で構成される浦佐バイパス整備促進期成同盟会等より早期整備の要望を受けている。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 バイパス沿線では、集客施設や医療・福祉施設、青果物集荷場、工業団地など発生集中交通量の多い施設の立地が進んでいる。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 南魚沼市浦佐地内のL=1.1kmを部分供用しており、地元合意のもと用地買収も約82%進捗している。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 交通量の推移を勘案しつつ、残事業区間については平成20年代の完成供用を目指す。			
施設の構造や工法の変更等 新技術、プレキャスト製品の積極的な活用及び大型化（長尺化）、建設発生土の有効活用、再生材を利用した舗装、路盤工の活用等により、コスト縮減を図っている。			
対応方針 ：事業継続			
対応方針決定の理由 事業の効果並びに事業の実施状況を踏まえ、事業の継続が妥当である。			
事業概要図			



凡	例
■■■■■■	供用中
■■■■■	事業中
■■■■	再評価箇所
■■■■	うち供用中

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 事業全体の費用便益は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。